

大道芸アジア月報 2023年 2月

vol. 35、no. 2

編集・発行人 上島敏昭

〒165-0025 東京都中野区沼袋 2-31-2

春山荘・東

★大道芸案内

主な大道芸スポット（土・日・祝日など、通年大道芸が見られるポイント）

■大阪・天保山海遊館広場 <https://www.kaiyukan.com/thv/marketplace/>

■大阪パフォーマーライセンス <http://www.osaka-performer.com/index.php>

■名古屋・大須ふれあい広場 ■名古屋 POP UP ARTIST <http://popup-artist.com/index.html>

■しずおか大道芸の街 <http://shimarukai.org/> ■江ノ島大道芸 <https://www.fujisawa-kanko.jp/feature/daidoge.html>

■ヨコハマ大道芸（山下公園、グランモール公園、ジャックモール） <http://daidoge.jp/>

■お台場・デックス東京ビーチ ■みなとみらい東急スクエア ■テラスモール湘南 www.studioeggs.com

■東京都へブンアーティスト www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/

■仙台まちくるパフォーマーズ <https://machi-kuru.com/performers>

※新型コロナウイルスの蔓延状況によって実演していない場所もあります。確認の上、お出かけください。

★浅草雑芸団の催し

向島百花園・梅まつり

●2月11日（土祝）11:30/13:00/15:00

●2月19日（日）11:30/13:00/15:00

★今月の大道芸公演

△鈴木清写真展「天幕の街 MIND GAMES」 <https://fujifilmsquare.jp/> ○フジフィルムスクエア写真歴史博物館

●1月4日（水）～3月29日（水）

△ポップアップフェス in 大阪梅田 <https://osaka-kiten.jp/pop-up-fes/>

●1月25日（水）～2月12日（日）

○カリヨン広場 14:30～/16:30～

○南ゲート広場 15:30～/17:30～

●1月30日（月）～2月3日（金）

○ビックマン前広場 17:00～/18:45～

○阪急サン広場 14:00～/16:00～

●2月6日（月）～2月（日）

○泉の広場 15:30～/17:30～ ※2月12日（日）14:30～/17:00～

○サニーテラス 16:00～/18:30～ ※2月12日（日）15:00～/17:30～

△第30回亀戸大道芸 <https://www.kameidodaidoge.com/> ○江東区亀戸十三間通り商店街

●2月12日（日）12:00～16:00

ジャグラー・コーヘイ、工藤正景、おろしぼんづ、STILTANGO(off stilts)、June bride、しろみときみ、音姫金魚

△フラワーノーズの小手しらべ vol.1 <https://twitter.com/ottosaiko/status/1605877178033242112>

●2月18日（土）19日（日）両日とも14:00～/18:00～ ○あさくさ劇亭（台東区西浅草2-8-2）

18日：Aプロ 出演：かお、キヨノカ、松鶴家天太、たかくわみえ、NAOKO、パール・F・市丸、メランコリー鈴木

19日：Bプロ 出演：あいあい、おっとちゃん、SAKU&サクノキ、真太郎、タラン・ニバキンス、ぱふおーまーまめ

前売¥2000、当日¥2500

予約フォーム：<https://t.co/7cvd0AgoHi>

主催・フラワーノーズ

△第23回地域伝統芸能まつり「息吹」 <https://www.jafra.or.jp/project/tradition/matsuri/2023/> ○NHK ホール

●2月19日（日）14:30～

一人角力（愛媛県）、田子神楽（青森県）、高田神社獅子舞（岡山県）、御諏訪太鼓（長野県）、座喜味棒術（沖縄県）、

復曲能「名取ノ老女」、今寺面浮立（佐賀県）、伊賀和志神楽（広島県）、エイサー（沖縄県）、秋田竿灯まつり（秋田県）

入場無料（要・整理券）

△Poco Poco Festa2023（ステージアートのおもちゃ箱） <http://pocofes.com/> ○パルテノン多摩

●2月23日（木祝）10:00～16:30

（まるごと一日おもしろ体験・ワークショップ）

講師：タカパーチ、to R mansion、こまのたけちゃん、劇団かかし座、ヤノミ（小心ズ）、劇団 EASTONES 石田武

料金が必要なプログラムもあります

主催：バルテノン多摩共同事業体

△東京 de チンドンLIVE ○カフェ・ジンドー（東久留米市東本町5-1 2階）西武池袋線「東久留米駅」徒歩1分

●2月25（土）14：00～

チンドンかわち家（長崎）、チンドン好井（東京）、チンドンさかいや（東京）

入場料¥3000+1ドリンク

申込み：電話 090-2226-6077

△OUR FESTIVAL SHIZUOKA2023 <https://www.c-c-c.or.jp/lp/ofs2023> ○静岡市内各所

●3月11（土）12（日）

現代サーカス 出演：うっしおみ ○青葉シンボルロード 両日とも12：30～/14：45～（各回30分ずつ）

一輪車パフォーマンス 出演：静岡城内一輪車クラブ ○青葉シンボルロード 両日とも12：15～/14：30～（それぞれ15分ずつ）

地域再発見-しずおか紙芝居プロジェクト ○ARTIE アートガーデン、呉服町ハニカムスクエア、静岡市歴史博物館（屋外）

（両日とも、5回ずつ）

アワーフェス解放区！ ○MIRAIE リアン コミュニティホール七間町、ARTIE アートガーデン、人宿町やどりぎ座、葵スクエア

出演：MJC 静岡、マジカルおじさん、バルーンパフォーマーASUKA、サーカスアーティスト Kenshiro、フラ ハーラウ オ マウロア、

Mira Create！（ミラ クレアーレ！）、Moipa Genesis！（ミラ ゲネシス！）、レプリカさん、すり〜びす、Sho-彰、

ジャグリングドラゴン ヒョウガ、劇団静火、SHIZUOKA DANCERS、Dance Company “恋するシニア”、Yamato、

バルーンパフォーマーともちゃん。、スピロ平太、かなちんどんバンド with ぱびよんず、剣詩舞スーパーチーム、咲野栞樹、

穴の会、ホップマン

△第15回うつのみや大道芸フェスティバル <https://utsunomiya-daidougei.com/> ○宇都宮市・オリオンスクエアほか

●3月25（土）26（日）

おろしぼんづ、虹たまや、SUKE3&SYU、セ3味ストリート、ひこひこ、とりさん、Mr.アパッチ、張海輪中国雑技団、手品家、

りずむらいす、加納真実、柳貴川起助、ジェンガ金次郎、スマイルパフォーマーQちゃん

△大阪パフォーマーライセンス認定審査会 <https://www.osakaperformer.com/audition.html> ○大阪南港ATC

●3月27（月）

△ミュージッククラウン&サーカス「虹色組曲」<https://www.tajimi-bunka.or.jp/gakushu/?p=13280>

●4月8（土）18：00～/4月9（日）11：00～/15：00～ ○ヤマカまなびパーク（多治見市学習館）7階多目的ホール

オーバートーン、叶結-カナウノットー

大人¥2000、子ども（中学生以下）¥1000

予約 電話：0572-23-7022

メール：info-manabi@tajimi-bunka.or.jp

主催：大道芸地位向上委員会 共催：ヤマカまなびパーク

△第6回多治見大道芸見本市 <https://tajimidaidougei.jimdofree.com/> ○岐阜県多治見市 虎溪用水広場、JR 多治見駅、多治見市役所

●4月15（土）16（日）

アートパフォーマー☆ファイター☆、アストロノーツ Mark2、Witty Look、エル、おろしぼんづ、オマールえび、くす田くす博、

工藤正景、近藤流 曲独楽師 独楽太郎、komatan、催眠術師じゅんいち、サンキュー手塚、じゃぐたく、終末キモイン健山、少年と少女、

大道芸人ジニー、大道芸人ぱびー、CHIKI、ちゃんへん、中村友美、パフォーマーASUKA、HOOPER MAEP、豊来家幸輝、Box Theater HANE、

三雲 いおり、ものまる、リユーセー、Ray、Rei lwakura

主催：多治見まちづくり株式会社 多治見市 協力：大道芸地位向上委員会

若林正の

食って極楽

変な名前のラーメン屋・・・

巣鴨「生姜は文化。」

今度やる芝居はラーメン屋の話だ。ワタシの役は新潟のラーメン屋。そのため、新潟のラーメンについて調べてみると、様々なご当地ラーメンがあることを知った。燕三条背脂ラーメン、カレーラーメンなどが有名で、もう一つ代表的なのが生姜ラーメンだ。先日たまたま都内を自転車で徘徊中に、巣鴨で妙な名前のラーメン屋を見つけた。

「生姜は文化。」何だこりゃ？覗いて見ると、けっこうお客が……。一つ席が空いているのを確認して入ってみる。

メニューを見ると、店名の通りに生姜ラーメンが売らしい。これまで生姜ラーメンを食べたことがなかったので、生姜醤油ラーメン¥750 と卵かけご飯¥250 を注文する。

ワタシが入店してからすぐに、続々とお客が並び始めた。かなり人気店みたいだ。さてラーメン登場。確かに生姜の香りが立ち上ってくる。ダシだけでなく、ラーメンにもおろし生姜がかかっている。手打ちの縮れ平打ちが麺にコクのある生姜スープがよく絡み、ズルズルと吸り込みが止まらない。美味い！ 卵かけご飯にはチャーシューが載り、ボリュームがある。なるほどこれが新潟のご当地ラーメンか。実に、んまかった。



しかしこの店、生姜ラーメンだけでなく色々変わりメニューも出しており、この日の限定メニューは、金目鯛塩出汁ラーメンだった。他の客はけっこうそれを注文しており、ちょっと興味が湧いた。巣鴨駅から6～7分なので、こちらに来ることがあれば又是非寄ろうと思っている。

○意外とハマる度＝10 ワカ

2023 年はるこま七福神めぐり報告

上島敏昭

○本年のトピック

2023 年も恒例の「はるこま七福神めぐり」を実現することができた。「祝福芸の復活!」などと大仰なうたい文句で、2001 年からはじめた正月の催しは、今回で 23 回目になる。江戸時代からつづく伝統行事である「隅田川七福神めぐり」の関連行事に加えてもらったことで、こちらのモチベーションもあがり、浅草雑芸団にとっては、まさに晴れ舞台となっている。毎年のことなので、いつもの通りやればいいのだが、「いつもの通り」というのが、なかなかクセモノで、いつもいつも思いも寄らない事態が勃発して、てんでこ舞いなり、ほとんど綱渡り状態で、ハラハラドキドキのうちに、一回、また一回と、なんとか切り抜けてきたというのが、偽らざる実情である。

a. 干支人形の手作り

今回はコロナに加え、まさかのウクライナ戦争による影響で、大きな変更を余儀なくされた。この催しでは、訪問した寺社やお店で、一年を予祝する春駒の踊りを披露した上で、記念というのかお土産というのか新年の御祝というのか、干支の飾り物を配布するというかたちをとっている。干支の飾り物というのは、小さな陶製の干支人形を購入し、これを棒の先につけて松葉や水引などで飾り立てた、浅草雑芸団オリジナルのピックで、これを年末に自作するところから、この催しがはじまる。昨年 11 月初旬、「さあ、いつものように準備を始めよう」と、いつもの店を訪ね、店の棚を見たが、いつもの年なら山積みになっている陶製干支人形がない。店員さんに聞くと、船が入らないのだという。船か!……。ぱくぜんとアジアのどこかで作らせているのだろうとは思っていたが、干支の人形が船で運ばれてくるところまでは、想像していなかった。まぎれもなくウクライナ戦争の影響だ。遠い話だとおもっていたウクライナとロシアの戦いが、一気に身近になった。いつ入るのかと聞くと、「まったくわかりません、もしかしたら年明けかも」という。「それじゃ役に立たないでしょう」というと「そうなんです。うちも困ってるんです」。仕方がないので、いつ手に入るのかかわったら連絡してくださいと言って、家に帰った。

手をこまねいているわけにもいかないので、どこか別の仕入れ先はないかと、ネットで干支人形、ウサギ人形を検索すると、いっぱい出てきた。しかし、大きすぎたり小さすぎたり、値段が高かったり、数が揃わなかったりで、「これは」と思うようなものはなかなか見つからない。そんななか、おやっと思ったのが、繭玉を加工してウサギらしく作った飾りもの。値段も高く、数も揃わないが、このくらいの飾りなら私でも作れるのでは……と思った。繭さえ手に入れば手作りできそうだが……とこれもネット検索すると、商品としての繭玉はたくさん出てきた。どうやら美容に使うらしい。値段もピンからキリまで。問題は数が揃うのかだが、調べるうちにそれもクリアできそうだとわかり、無駄になる可能性もあったが、時間が限られているので、すぐに注文した。三日後には手に入り、いくつか試作して、家人の意見も参考に形を決定し、それを陶製干支人形に替えることにして製作をはじめた。そのころ、12 月初旬に船が入って販売できそうだと連絡が来たが、キャンセルさせてもらった。



b. 自動車問題

二つめは、自動車問題。七福神めぐりの仲間に入れてもらってから、多聞寺から白鬚神社・百花園・じまん草餅へ。そこからさらに言問団子・さくらもち・長命寺までは、距離が長いので移動手段として、自動車を使うようになった。また、寺社めぐりだけではなく、奉納演芸もおこなうので、その道具も持ちこむ必要があり、道具や材料を搬入するためにも自動車は必須である。ただし、23 年間のうちにメンバーがつぎつぎに自動車を手放してしまい、近年はレンタカーを利用している。本年の問題は、催しの前日、一月二日に、わたしが仕事をいれてしまったため、搬入に自動車が使えなくなってしまうこと。結局、控え室を貸し

て下さる弘福寺さんをお願いして、大晦日に家人と二人、手持ちで搬入することにした。それほど重いものはないが、大荷物で、駅からも遠いので、想像以上の大仕事になってしまった。

当日の移動手段としての自動車については、昨年はレンタカーが予約いっぱいではなかったため、タクシーを利用した。タクシーは楽ちんだったが、乗車人数が多いため、二台必要となり、すこしもたついた。それを考慮すると、やはりレンタカーのほうが便利かもしれないとも思えた。迷った末、結局タクシー利用の楽ちんさに軍配を上げ、12 月中旬になって、昨年利用したタクシー会社にあたったところ、すでに予約いっぱいとのこと。大慌てで、ほかの会社を調べたが、いずれも予約いっぱい。逆にレンタカーは予約でき、胸をなでおろした。つぎは早いうちに予約しようと、ここに決めた。

c. ワークショップと NHK

ほかに今年のトピックは、親子で「玉すだれ」にチャレンジするワークショップの参加者による見学があったことと、NHK の取材・放映があったこと。玉すだれのワークショップは、年末に指導した親子が 1 月 15 日に発表会に出演するにあたり、実演される現場をみてもらおうという企画である。正月の 3 日、寒いし、駅からも遠いので本当に来てくれる人はいるだろうかと、気をもんだが、数組の親子が来てくださって、なんとか面目をたもった。NHK の取材は、白鬚神社の鳥居前での春駒実演が収録され、放映された。例年のように神社でお祓いを受けたあと、混雑する鳥居内はさけて、鳥居外の神楽殿前の広場に出ると、カメラが待っていた。お客さんも集まっていたので、特別な人集めなどもせずにいつものどおり実演すると、取材班も撮影をはじめた。アナウンサーやタレントさんが入るでもなく、インタビューがあるわけでもなく、いつものとおりに演じて、次の百花園に向った。なんとも素っ気ないものだったが、夕方のニュースと夜のニュースで放映されたとのことだった。正月らしい風景ではあろう。とりあげてもらうのは有難い。

以上、本年の「はるこま七福神めぐり」のトピックである。

以下、いつもの通りではあるが、どのように催しが行われたのか、報告しておきたい。

○今年の行程

a. 準備から多門寺

集合は朝8時。今年も弘福寺門前の弘福寺会館に集まる。ここで準備して、クルマで出発し、午前は寺社めぐり。昼前にもどり、休憩ののち、ふたたび向島二丁目を中心としたお店の門付けと奉納演芸会を行う。ここがその基地になる。

さまざまな準備をするうちに自動車がやってくる。荷物を積みこんで、9時半すぎに出発。多門寺の駐車場には10分ぐらいで到着する。



道具をおろして、まず隊列の確認をする。先頭は大きな馬の頭の作り物を持ち、福飾りを背負った者、それにつづいて春駒の踊り手ふたり、そのあとに楽師が、太鼓・笛・三味線の順で従い、しんがりには記録映像係がつとめる。もっとも厳密にこの順序を守るわけではなく、そのときどきで柔軟に対応した。

多門寺さんは10時開始の予定だったが、早めに境内にはいって実演をはじめた。本堂まえの空間が狭いため、去年は門外に出て演技場を作ったが、なぜか今年はまだ参拝者の行列ができていなかったの、本堂前で実演した。やっているあいだにどんどん参拝者が増えて、けっこう密な状態となり、なにか言われるのではとヒヤヒヤしたが、昨年ほどピリピリした雰囲気はなかった。ソーシャルディスタンスに関しては、かなり感覚がゆるくなっていることを実感した。佐渡と新潟県三和村の、それぞれの春駒の一部をアレンジしたものを演じたあと、福飾りの販売をする。人のあつまり具合がよかったのか、例年以上に売れているような気がする。自作の干支人形に関しても、さほど悪い印象はないようだ。まずはひと安心。

いつも雑芸団がお世話になっているKさんが会場にいらして、声を掛けてくれた。ありがたいことである。昼前だけでもわれわれの巡行に付いてまわ

りたいとのこと。レンタカーなのでこういうときの対応は簡単だ。一緒にクルマに乗ってもらって白鬚神社に移動する。

b.白鬚神社から小沢昭一さんの墓前

白鬚神社に到着。ここでは数年前からご祈祷を受けている。お忙しいなか社前でお祓いをしてもらう。ここも本堂前は密になるので、去年は鳥居外の神楽殿前で演技している。本年も祈祷をうけたあと、神楽殿前に移動すると、テレビカメラとそのスタッフらしき一群と、それを取り巻いて参拝者が待っていた。春駒を実演して福飾りの販売。毎年来ているという方が声をかけてくれた。奉納演芸会の福引きを楽しみにしていたが、今年はやるのか、と聞かれた。本年はとても福引きという状況ではなかったが、できることならば、来年は奉納演芸の福引き会もやりたいと思う。

歩いて向島百花園に移動。都立公園としては1月3日までは休園だが、七福神めぐりは特例として入場が許されている。七福神めぐりの参拝者にとっては絶好の休憩地点で、お茶屋もあるので、椅子に腰掛けて、甘酒を飲んだり、甘い物食べたりしている。会場もひろいので、のんびりしたお客さんを相手に、我々もゆったりと演技をすることができる。つづいてお店を二軒、門付けする。百花珈琲さんとじまん草餅さん。百花珈琲さんは新しい店だが、七福神めぐりの協賛店に加わっているの、声をおかけして門付けさせてもらった。じまん草餅さんは、言問団子さん、さくらもちさんとともに、福引きに商品を提供してくださったお店で、われわれにとっては、古くからお世話になっているお店である。お店での門付けは、門口で演技したあと、お店のなかに駆け込むというパフォーマンスを加えている。

じまん草餅さんを終えて、ふたたびクルマに乗って、こんどは言問団子さんに移動。クルマの移動はこれで終了になる。言問団子さん、さくらもちさん、長命寺と歩いて移動し、午前中最後の訪問地は、基地のある弘福寺となる。言問団子さんとさくらもちさんは、店内で飲食しているかたがいらっしやるので、そのかたにもお土産になるように、干支の根付けを配布している。長命寺さんも境内は広い。幼稚園が境内にあるのも関係しているのか、子どもが来ていることも多いような気がする。

弘福寺さんも境内は広いので、今回は本堂に上る石段の脇で演技した。このお寺は小沢昭一さんの菩提寺なので、小沢さんの墓前で演技するのも恒例になっている。墓石の前で手を合せながら、いろいろな縁でこの催しができるのだと、いつも実感している。ふたたび基地である弘福寺会館に戻ると、12時をすこし回っていた。

c.町めぐり

午後は奉納演芸の準備をしたあと、1時すこし前に巡行に出発した。今度は徒歩である。まず三囲神社。コロナまではこの神社で奉納演芸会をやらせてもらっていた。控え室としていた建物が建替えとなり、弘福寺さんが替りを引き受けてくださった。ここも境内は密になるので鳥居外で演技した。

これからいよいよ、町まわりである。以前は一般の家にも声を掛けたりしたが、労多くして反響はなし。コロナになってからはまったくやめた。結局、現在まわっているのは、ほとんどすべて店舗になった。割烹・居酒屋さん。つぎが縁起物の風屋さん。つぎが唯一の一般宅であるIさん宅。靴の歴史研究の第一人者である。正月の日経新聞で紹介されたとのことで、御祝の会のような雰囲気になった。こっちもめでたいような気になる。つぎがペット屋さん。お寿司屋さん。甘い物屋さん。おそば屋さん。ブティック。小物屋さん。そして創業65年の喫茶店。軒数とすればわずかなものだが、これだけ回るのに一時間以上はかかる。それぞれのお店、お宅ともそれぞれの思い出がある。23年の歴史を思う。

基地の弘福寺に戻ると、演芸会がはじまるころだった。別働隊が紙芝居と三味線唄の準備をしていて、春駒の門付けが遅くなるようなら、さきに演芸をはじめていることになっていた。今年はぎりぎり間に合った。聞くと、弘福寺さんから境内でやってもよいといわれたとのこと。それならば……と、早速、演技場を移動して境内でやらせてもらうことにした。

すぐに紙芝居を始め、つづいて贅女唄の万歳、玉すだれで終了した。玉すだれと獅子舞のワークショップ参加の親子が数組みにきてくださったので、たいしたものではないが、記念品も差し上げた。天気もよく、風もなければ寒くもなく、ほんとに気持ちのいい一日だった。来年も「はるこま七福神めぐり」ができればうれしい。福引きも復活させるのが目標ということだろうか。